

2020年度 日本生活学会事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

I. 事業活動

- 第47回 研究発表大会
2020年6月6日土、7日(日)に東京大学本郷キャンパスでの開催を予定していたが、Covid-19感染拡大の深刻な状況より、大会・対面での研究発表大会を中止とした。
- 第47回総会は、大会が中止となったため、後日、WEB上で審議を行った。
- 生活学プロジェクトの運営
- Covid-19感染による生活変化に対する学会提言を行うために「コロナ特別研究委員会」を発足
- 生活学カフェの運営(オンライン)
10月10日(研究発表大会の希望者が発表)、1月23日(コロナ特別研究委員会)

II. 役員会開催

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 理事会 | 5回 |
| 2. 常任理事会 | 1回 |
| 3. 『生活学論叢』vol.36-37、38 編集委員会 | 6回(+メール審議) |
| 4. 今和次郎賞2020選考委員会 | 3回 |
| 5. 日本生活学会研究論文賞2020選考委員会 | 1回 |
| 6. 日本生活学会博士論文賞2020選考委員会 | 1回 |

III. 出版物発行・メールニュース配信

- 2020年6月 「第47回研究発表大会梗概集」
- 2020年9月 『生活学論叢』vol.36-37
- 2021年3月 『生活学論叢』vol.38
- 日本生活学会メールニュースの配信

IV. 常置委員会活動

1. 総務委員会

委員長 野村知子

(1) 第47回研究発表大会の中止にともない、2019年度事業報告、同収支決算報告、2020年度事業計画案、同事業予算案はWEB上での審議を行った。今和次郎賞(0件)、日本生活学会研究論文賞(1件)、日本生活学会博士論文賞(1件)

(2) 理事会運営 6月6日、10月10日、1月23日、4月24日、5月15日(常任理事会3月13日)

2. 学術委員会

委員長 石川初

(1) 研究交流会を開催した。Covid-19感染症拡大のため中止となった第47回研究発表大会に参加予定だった研究から、オンラインでの再発表希望のあった研究、また2019年度日本生活学会博士論文賞の受賞者による発表を、「生活学カフェ」としてオンライン開催した。

(2) 研究者の育成、支援の一環として、第6回の日本生活学会博士論文賞の審査を行い、受賞者1名を決定した。

(3) 今和次郎賞の選考方法とプロセス等について、検討を行った。

3. 『生活学論叢』編集委員会

委員長 塩月亮子

- (1) 『生活学論叢』を年2回発行として、刊行を行なった。
第36-37号 2020年9月発行
第38号 2021年3月発行
- (2) 2020年度、研究論文賞の審査を行い、受賞者1名を決定した。

4. 事業委員会

委員長 笠井賢紀

- (1) 第6回「生活学プロジェクト」助成事業を実施した。Covid-19の影響もありスケジュール例年より遅れたが、8月初旬に募集開始、8月下旬に募集〆切、9月初旬に採択プロジェクト決定を行った。11件の応募があり、審査の結果10件(助成金あり9件/なし1件)を採択した。全プロジェクトについて、期限通りに年度末の報告書提出、第48回研究発表大会への応募がなされた。

5. 情報委員会

委員長 饗庭伸

- (1) ウェブサイトの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (2) メールニュースの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (3) フェイスブックの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (4) 日本生活学会の100人2名の記事を作成し、成果をウェブサイトにもとめて内外に情報発信した。
- (5) 会員向けオンライン座談会「with コロナ post コロナの生活学」を3回開催し、成果をウェブサイトにもとめて内外に情報発信した。

V. 特別委員会活動報告

1. 生活学会コロナ特別研究委員会

代表者 黒石いずみ

- (1) Covid-19感染症による生活変化に対する学会からの提言を行うために、2020年11月より検討を行い、12月から理事会承認を経て特別研究委員会を設立、参加者募集を行った。学会員以外を含む51名以上が参加して6領域に分かれ(第一セクションは高増幹事の元に1/19, 2/12、第二セクションは饗庭幹事の元に1/27, 2/8、第三セクションは祐成幹事の元に2/5, 2/14、第四セクションは真鍋幹事の元に1/21, 2/2、第五セクションは塩月幹事の元に1/24, 2/7, 2/13, 2/14、第六セクションは黒石幹事の元に1/5, 1/19, 2/7, 2/14に)研究会を開催して、現状把握に基づく生活の根本への問いの整理を行い、学会の枠を超えた範囲に及ぶ生活学会大会での論文募集を行った。新たな会員を含む多くの参加者を得て学会全体の議論の場の用意がなされた。

以上